



2024年11月20日（水）校歌作詞者「谷川俊太郎先生」のご逝去を悼んで

先月の10月5日（土）本校創立50周年記念式典が開催されました。その式典後には国立天文台水沢 VLBI 観測所所長の本間希樹氏による講演会があり、宇宙と宮沢賢治、谷川俊太郎氏について分かりやすくお話しいただいたところです。谷川俊太郎先生が50年前（昭和49年）の2月、実際にこの地を訪れ当時の生徒会の皆さんと座談会を行い、校歌作詞のヒントを得られたという話が30周年記念誌に載っています。また、現在の校舎建設予定地を、谷川先生を先頭に雪原を歩く様子も記録として残っています。その当時の生徒の一人は、雪が降り、駅から学校までの通学路が雪に埋もれてしまった朝は、一人ひとりが足で踏み固め道を作って学校までたどり着くこと、校庭北側のポプラ並木の根本から春に萌えいでる草の青さのすばらしさを、夢中で谷川先生にお話し、深く共感して下さったと30周年記念誌に残っています。当時の校歌は山や川を詠みこまれるのが通例とされていましたが、そのような歌詞は一切なく、宇宙的な広がりさえ感じられる斬新なものだったようです。

校歌の最後に詠まれている「一筋の道をゆく我等」は、本校の不変のテーマとなり50年たった今でもその精神は脈々と受け継がれています。



岩手日報の取材に応じる
総合生活科1年の2名
左 於本 香璃菜さん
右 池田 胡桃 さん



昭和49年2月
谷川俊太郎氏を先頭に青雲台
の雪原を歩く様子



花北商業高等学校
創立30周年記念誌
「ジェネレーションXY」より

